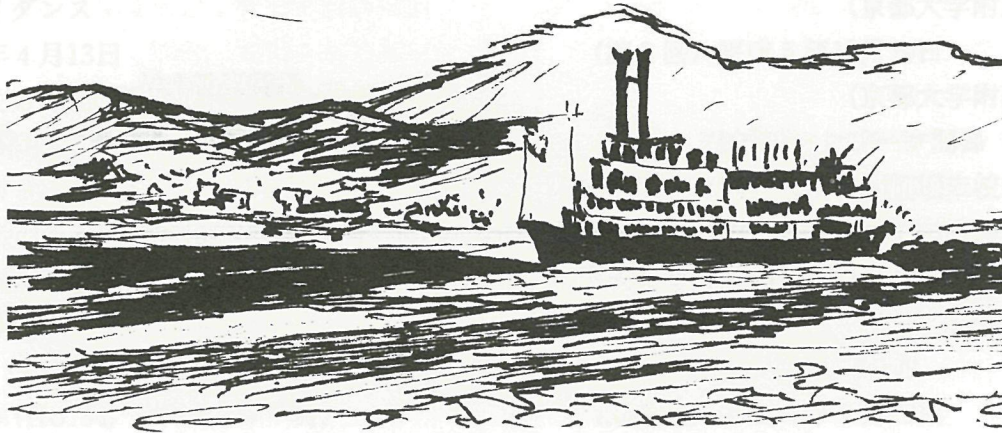


さざなみ



滋賀医科大学附属図書館報

No.35

目 次

1994年 1 月

文献検索の功罪副学長 野崎 光洋..... 2

NACSIS-IRから文献を
オーダーしてみませんか?.....図書課運用係..... 4

シリーズ「本との出会い」(1)
「わかる」というようなこと哲学教授 神館 義朗..... 6

平成5年度「医学文献の調べ方に
関するガイダンス」実施報告.....図書課運用係..... 7

平成5年度「医学文献の調べ方に
関するガイダンス」の感想5年生 関戸 康友..... 7

附属図書館の活動..... 9

本学関係者寄贈図書.....10

文献検索の功罪

滋賀医科大学

副学長 野崎 光 洋

新しい研究を始める際、先ず行うことはその研究に関する過去の文献を検索することである。それは、先人がすでに発表した事柄を繰り返しやっても研究としての価値は認められず、すでに発表された業績を基に、それをさらに発展させて始めて国際的にも新しい業績として認められるからである。その先人の業績を調べるのが図書館の主な役割であることは言うまでもない。近年、文献検索にもコンピューターが導入され、世界の学術情報ネットワークを利用して、全世界の情報が瞬時に入手できる大変便利な時代になってきた。その反面、頭のコンピューターの方がパンクしかねない程の情報量があり、過去の業績を追いかけるあまり、研究をする時間がないという、本末転倒な事態にもなりかねない。

医学を含む自然科学は実証科学であるから、過去の業績をもとにいくら立派な考えをだしてもそれはあくまでも仮説であり、その仮説を実験により証明（実証）して始めて事実として認められる。それでは実験とは何か？ ここで大阪大学医学部生化学教室の初代教授古武弥四郎先生の有名な言葉を引用させていただきたい。

本も読まなくてはならぬ
考えても見なければならぬ
しかし、働くことこそより大切である
凡人は働かなくてはならぬ
働くとは天然に親しむことである
天然を見つめることである
こうしてはじめて天然が見えるようになる

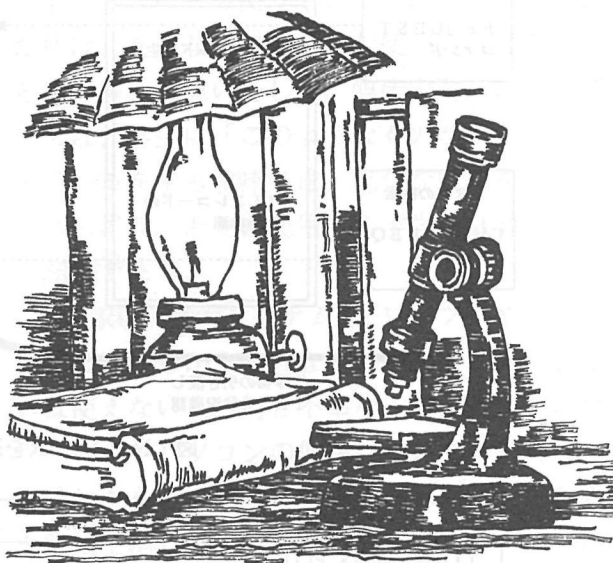
天然に問いかけること、これがすなわち実験である。凡人がいくら頭の中で考えても複雑な生命現象のからくりは簡単には理解できない。そこで天然に問いかけて天然からの答えを求めるのである。しかし、誤った問いかけをすることは自然を拷問にかけ、虚偽の自白をさせるようなもので、正しく問いかけるた

めには絶えず天然に親しみ、天然を見つめることが大切である。大抵の人は自分の期待した答えが得られれば自分の考えは正しかったと喜ぶが、それは凡人の考えたことであり、大した発見にはつながらない場合が多い。それとは逆に、期待はずれの結果が得られた場合、がっかりする人が多いが、こういうときこそ凡人には考えもつかないすばらしい答えを天然が与えてくれているのであり、大発見につながるものが期待される。

ノーベル賞級の独創的な研究といわれるものの中にも失敗した実験あるいは偶然の機会に端を発した研究が多くみられる。最近、テキサス大オースチン校化学科教授 R. M. ロバーツ著の「セレンディピティー」という本が本学の安藤喬志教授の翻訳により化学同人から出版された。先日、朝日新聞の書評にも紹介されたから、ご記憶の方も多いと思う。「セレンディピティー」とは辞書によると「予想外の幸運な発見を偶然にする才能」と記されている。ニュートンの万有引力、ジェンナーの種痘、フレミングのペニシリンの発見などのように広く知られた話から、あまり知られていない話まで、偶然の機会に恵まれ大発見につながった多くの研究が紹介されている。そのような偶然の機会は長らく研究を続けていると何度か訪れるものである。問題はその機会をいかにうまく受けとめて独創的な研究に発展させるかである。そのためには物事に対する洞察力と知的好奇心、固定観念に捕われない自由な発想と柔軟な頭脳、発展を支える知識と技術的経験などが必要である。

文献をじっくり読んで、よく考えてから実験にとりかかる人、文献は程々にして、先ず実験をする人、研究者の中にもいろんなタイプがある。しかし、文献をいくら読んでも、幸運な偶然に遭遇することはまずありえないことは確かである。また、不滅の事実として認められている過去の業績の中にも必ずしも正しくないものもある。過去の業績を鵜呑みにして誤った先入観をもつと、謙虚に天然の答えを受けとめられなくなり、偶然の機会をも見逃すことにもなりかねない。古武先生の言葉にもある様に、論文を読み過去の業績を調べることは勿論大切である。しかし、働くこと（実験をすること）のほうがより大切である。文献

検索よりも先ず実験をし、ある程度の予備知識と問題意識をもったうえで論文を読むと、過去の業績もより批判的な目でみることも出来よう。その実験の過程で時々発信されるセレンディピティーの電波をキャッチする鋭敏なアンテナを絶えず立てておくことこそ、研究を成功させる重要な鍵ではなかろうか。



NACSIS-IR(学術情報センター情報検索サービス)から文献をオーダーしてみませんか？

図書課運用係

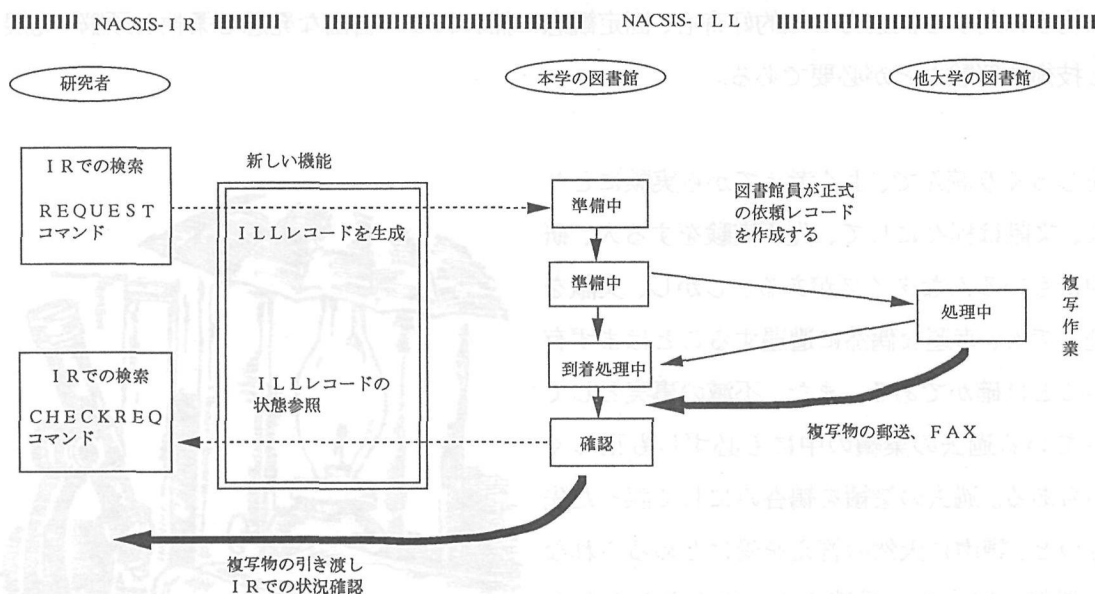
平成5年3月29日付け「NACSIS-IR(学術情報センター情報検索サービス)からのILL申込機能の運用について」御案内いたしましたように、平成5年4月から、NACSIS-IRを通じて、文献複写や現物貸借の依頼ができるようになりました。

NACSIS-IRのデータベース(参照：表)を検索中に、必要な文献を「REQUEST」というコマンドを入力することにより、自動的にILL(図書館間相互貸借)システムに必要事項が転送さ

れ、図書館に出向くことなく、他大学への文献複写や現物貸借の申し込みができます。(参照：図)

この機能を利用するにあたっては、まず、学術情報センターにNACSIS-IRの利用申請を行ない、利用資格を取得後、附属図書館にて「ILL申込機能利用申請書」を提出していただく必要があります。

なお、利用資格は研究者等(大学院学生を含む)に限られています。



図：NACSIS-IRを通してのILL申込の概念図

データベース名	分野	データベース名	分野
COMPENDEX PLUS	工学	経済学文献索引データベース	経済学
ISTP&B	科学技術	民間助成研究成果概要データベース	全分野
EMBASE	医学薬学	家政学文献索引データベース	家政学
SciSearch	自然科学	JPMARC	全分野
Social SciSearch	社会科学	LCMARC(Books)	全分野
A&H Search	人文科学	LCMARC(Serials)	全分野
雑誌記事索引データベース	全分野	目録所在情報データベース	全分野
国会図書館科学技術欧文	科学技術	(和図書)	全分野
会議録データベース	全分野	(洋図書)	全分野
科学研究費補助金研究成果	全分野	(和雑誌)	全分野
概要データベース	全分野	(洋雑誌)	全分野
学位論文索引データベース	全分野	アメリカンセンター図書館	アメリカ文化
学会発表データベース	全分野	総合目録データベース	
学術論文データベース	電子工学 化学		
研究者ディレクトリ	全分野		

表：NACSIS-IRからILLへオーダーできるデータベース一覧(平成5年12月現在)

では、NACSIS-IR での EMBASE(医学関係文献データベース) に収録された1993年発行の雑誌の論文からアトピー性皮膚炎とステロイドのキーワードをもつものを検索し、検索した文献の申し込みを行なう方法の実例を示します。(下線文字は入力文字を表します。)

〈接続手順省略〉

>>EMBASE

〈OPEN メッセージ略〉

TYPE IN COMMAND

1/PHRASE ATOPIC DERMATITIS

PHRASE ATOPIC DERMATITIS

* 2551 K.ATOPIC

* 10756 K.DERMATITI

* 2050 1/ "K.ATOPIC" AND "K.DERMATITI"

END NOSAVE

TYPE IN COMMAND

2/SEARCH STEROIDS

SEARCH STEROIDS

* 18239 2/ K.STEROID

TYPE IN COMMAND

3/SEARCH Y.1993

SEARCH Y.1993

* 284228 3/ Y.1993

TYPE IN COMMAND

4/AND 1,2,3

AND 1,2,3

* 10 4/ 1 AND 2 AND 3

TYPE IN COMMAND

5/DISPLAY M.B

DISPLAY M.B

(1)

ACCN:93070563

AUTH:Walker C.; Kagi M. K.; Ingold P.; Braun P.; Blaser K.; Bruijnzeel-

Koomen C. A. F. M.; Wuthrich B.

AFFN:Institute of Allergy and Asthma Res., SIAF, Oberstrasse

〈中略〉

(10)

ACCN:93328426

AUTH:Aggarwal R. K.; Potamitis T.; Chong N. H. V.; Guarro M.; Shah P.;

Kheterpal S.

AFFN:Birmingham and Midland Eye Hospital, Church

Street, Birmingham B3 2NS

(GBR)

TITL:Extensive visual loss with topical facial steroids

CITN:EYE, 7/5 (664-666) YEAR:1993

CODN:EYEEE ISSN:0950-222X

TYPE IN COMMAND

ここから必要な文献を REQUEST コマンドを使って依頼する例になります

5/REQUEST I.10 ←10番目の文献を複写依頼する

REQUEST I.10

*** ENTER NUMBER WHICH IS YOUR ACCOUNT CODE

1 pb

2 pr

:1 ←支払区分 (校費、私費) を選ぶ

*** ENTER NUMBER

1 国内・郵送

2 国内・速達

3 国内・FAX

4 国外

:1 ←依頼範囲と送付方法を選ぶ

*** ENTER COMMENT :

図書館にコメントがあれば、ここへ入力する

***** (1) *****

Aggarwal R. K.; Potamitis T.; Chong N. H. V.; Guarro M.; Shah P.; Kheterpal S. "Extensive visual loss with topical facial steroids" (LANG=ENGL)

EYE, 7/5 (664-666)

EMBASE (93328426)

***1 RECORD (COPY) REQUEST--OK? (YES/NO):Y

複写依頼しようとする文献の再確認、誤りがあればNと入力すれば依頼はキャンセルされます

*** YOUR REQUEST (1 ITEMS) BE ACCEPTED ON ILL ***

TYPE IN COMMAND

5/END

〈切断手順省略〉

以上のように、研究室のパソコンから、NACSIS-IR で文献検索を行ないながら、REQUEST コマンドを入力するだけで、必要な文献の依頼が行なえます。

また、依頼した文献の処理状況や連絡事項は NACSIS-IR から CHECKREQ コマンドによっても確認することもできるようになっています。

詳細については、運用係 (内線2080) までお問い合わせください。

「わかる」というようなこと

哲 学

教授 神 館 義 朗

多感な青春時代に一冊の本と遭り会い、その本によって以後の人生がきまった、など書くことができれば、たいへんカッコいいのもあろうが、私にそのような経験はない。

私は元来がオクテだったから、特に文学書や思想書の場合、初めて読んで一遍にすべてがわかる、というようなことは少なかった。幾度か読み返し数年を経てから、その本の世界が心の中に、しっかりした一つの姿を現してくるのである。

たとえば、中学時代に初めてよんだジイドの『狭き門』がそうだった。妹がジェロームに秘かな想いを寄せていると知って彼から遠のき、ひたすら神への道を歩もうとするアリサの苦しみ。アリサを想い続ける繊細なジェロームの真情。それらが静かに交錯する透明な愛の世界。そういったものが、はじめは全くわからなかったのである。

然し今、この世界が意識の水底から澄んだ光芒を放ってくると、雑念にまみれた心は清冽な水で洗われたような気持になる。

また、漱石の『こころ』もそうであった。初めの印象といえば、主人公の高踏的な生き方に、一種の羨望と軽い共感を覚えた程度だった。然し、何年か経ってみると、はかなく危うい自分の心と、にもかかわらず己れを主張して止まぬ自我との相克に苦悩する一人の人間の姿が、はっきりと見えてくるようになった。それは、今、私の人間観を支える土台の一つになっているように思う。

西田幾太郎の『善の研究』になると、もっとひどい。この本を最初に読んだのは高校(旧制)入学後まもなくであったが、そこに展開される世界と日常世界との懸隔のあまりの大きさに、ただ呆然とするばかりだった。「主客未分の純粹経験」など、荒唐無稽のタワゴトのようにさえ感じられた。それが、起居寢食を事とする生活空間に劣らぬ確固とした現実味を帯びて迫ってきたのは、ここ十年ほどのことである。

これに対して、歴史書などは比較的すなおに内容が理解できた。けれども、だからといって私達の心を養う力に差があるわけではない。

すぐれた歴史書は、また、独自の素晴らしい世界を与えてくれる。なかでも強い印象を受けたのはギボンの『ローマ帝国衰亡史』だった。

私が読んだのは、エヴリマンズ・ライブラリィのポケット版であるが、各巻とも四、五百頁はあっただろう。全部で六巻から成る、かなりの大冊であった。これは、ローマ帝国の版図が最大に達したトラヤヌス帝の治世からメフメト二世のコンスタンチノープル攻略に至るまで、千数百年にわたる長大な歴史を具さに辿った、一大ロマンとも言える書である。

この本を読んでいると、時には、悠久の過去に思いを馳せながらペンを走らせているギボンの胸の高鳴りがジカに伝わってきて、そのペン先から流れ出る文字の跡が目に見えるようなのであった。

ところで、昨夏、ロンドンの大英博物館を訪れた時のこと。ギボン自筆の『回想録』の草稿がガラスケースの中に展示されており、その開かれた頁に次の一節が読みとれた。

It was at Rome, on the fifteenth of October, 1764, as I sat musing amidst the ruins of the Capitol while the bare footed fryars were singing Vespers in the temple of Jupiter, that the idea of writing the decline and fall of the City first started to my mind.

何という荘厳な瞬間。それと共に、むかし読んだあの壮大な歴史や、あの時に感じたと思ったギボンの胸の鼓動がまざまざと甦ってきた。そこには確かに一つの世界があった。

以上、幾つかの書物について「わかる」というようなことを述べてきた。然し、ここで考えてみると、私は今でも本当にわかっているのであろうか。これまで読んできた書物には、もっと深い意味や、私が読み違えたり読み落したりした別の世界があったのではないか。

然も、まだ読んでいない書物は多い。そう考えると、豊麗な心を彩るべき多様な世界の玄妙さに、めくるめくようなものを感じる。と同時に、私が確かに見、触れている世界は、その幾ばくにも満たないことに想到して、そら恐ろしいような焦燥にも駆られるのである。

平成5年度「医学文献の調べ方に関するガイダンス」実施報告

図書課運用係

「医学文献の調べ方に関するガイダンス」は、例年「臨床実習オリエンテーション」の一環として、臨床実習の開始時期にあわせて実施されています。今年度は、平成5年9月8日と9月22日に実施されました。実施概要は次のとおりです。

1. 実施日時

9月8日 3班

9月22日 3班（計6班 各70分）

2. 実施場所

附属図書館・情報検索コーナー

3. 対象者

第5学年生 96名（内出席者数 88名）

4. テキスト

『医学文献の調べ方に関するガイダンス：CD-ROM MEDLINE 実習編』

5. 実施内容

テキストにしたがって、主にCD-ROM MEDLINE の検索実習を行った。

基本操作を実習したあと、練習問題や出席者各人の関心のあるテーマについて検索を行った。

その後、検索結果をもとに、論文が掲載されている資料の探し方についての実習を行った。

ガイダンス終了後のアンケートでは、「とても便利だ」「ぜひとも利用したい」「興味深かった」などの積極的な意見が多くみられました。

一方、「コマンドを覚え切れない」「すぐ忘れそう」という声もありました。

また、「もっと早い時期に行う方がよい」「医学中央雑誌 CD-ROM 版の説明を聞きたい」という意見もありました。

附属図書館では、これらの意見も参考に、ガイダンス全般についてその内容、体制などを再検討し、よりよいガイダンスを実施していきたいと考えています。

平成5年度「医学文献の調べ方に関するガイダンス」の感想

5年生 関戸 康友

私は以前Medlineを使用した経験があり、今回のガイダンスそのもので得たものはない。だが、私の学年の多くの人間は図書館にそんなものがあるなんて事すら知らないか、あるいはその存在は知っていても、研究に従事しているわけでもない学生が何に活用するのかかわからない、というのが実状だったのではないだろうか。

実は先日（もちろんガイダンスの後の話である）、同学年の人間がCD-ROM検索システムをいじっているのを見た（残念ながらMedlineではなく日本語の文献検索システムの方だったが）。彼に何をしているのかを問うたところ、臨床実習のレポートを書くために文献を探しているのだと言う。このシステムは研究や論文作成や学会発表などで使うものだと思っていた私は、ああなるほどそんな使い方もできるな、と目が醒める思いをした。臨床実習前のガイダンスは、学生に「このようなものがあるぞ」とアピールをする意味では、充分な役割を果たしたかと思う。あとは使用する学生の意識と能力の問題である。

CD-ROM検索システムは、ワープロやパソコンに似ているかも知れない。使わない人、あるいは使えない人（何と不幸な人であろうか）は、ワープロやパソコンの使用について、そんなに切迫した必要を感じていない。しかし、それらを鉛筆や消しゴム並に使いなれた人ならば、それらのアイテムの便利さを痛感しているはずだ。実務的にも心理的にも、それらなしでは一日たりとも暮らしてはいけないのである。

知的探求に従事する方々には、この感覚を理解していただけたと思うが、このことは正にCD-ROM検索システムにも当てはまるのではないかと私は強く思っている。

日頃より学術論文を読むということに全く慣れていない（英語ならなおさらである）本学の学生にとってはMedlineの必要性を感じるこ

は希有の出来事かも知れない。「俺には関係ない」とか「そんなものは大学院に入って研究をするようになってから使うものさ」と思っている人間も多いはずである。そしてなお悪いことにいじり方すら知らない。だからよけいに足が遠のくというわけである。しかし、これをいったん使い始めると、こんな便利なものはないことに気づく。毎日何万件と提出される論文の全てに目を通すことなど誰にも不可能であるが、これさえあれば、自分が今問題としている分野の論文をいとも簡単に拾ってくるのである。論文に関する題名、著者、掲載雑誌名、抄録といった情報が完備されているので、抄録を読んでその論文が自分にとって本当に必要か判定することもできるし、論文が実際に掲載された雑誌を探すのにも便利である（ちなみに本学の図書館においていない雑誌に掲載された論文は、その雑誌を置いてある他の国立大学

の図書館から郵送で取り寄せることができる。それなりの料金がかかるが）。

繰り返すことになるが、学生がこのシステムを活用するかどうかは、その学生の意識と能力の問題である。パソコンやワープロと同じで、CD-ROM検索システムの活用には、自ら学んでゆこう、あるいはもっとこの分野のことが知りたいといったアクティブな姿勢が不可欠である。

ただ、このシステムを使う機会を増やすことはできると思う。臨床実習やプラクティス・カンファレンスと言うまでもないが、最近では基礎医学の方でも学生にテーマを与えて発表させる科目が多くなった。このような際にはある程度の論文の探索が必要であるから、CD-ROM検索システムが役に立つであろう。

そういう意味で、カリキュラムガイダンスの時期をもう少し早めた方がよいのではないかと思う次第である。

CD-ROMの利用について

現在、図書館には「MEDLINE」及び「医学中央雑誌」のCD-ROM版があります。

CD-ROMによる文献検索は便利なものですが、操作に慣れるまではとまどうことも多いと思います。

図書館では、簡単な操作法を紹介したマニュアルや、各機能を詳細に紹介するワンポイントレッスンを用意していますので、ご利用ください。

また、不明な点については、遠慮なく係員におたずねください。

ビデオ機器の設置について

ビデオ機器を寄贈いただきました。

平成5年7月にビデオ機器一式を滋賀医科大学雑誌編集委員会殿より寄贈いただきました。主な機器は次の通りです。

(1)全世界対応ビデオ	1台
(2)全世界対応モニター	1台
(2)VHSビデオ	4台
(3)8mmビデオ	1台
(4)簡易編集機	1式

国によってはビデオ信号が異なり、正常に再生できないビデオテープもありましたが、全世界対応ビデオ（モニター）を利用することによって再生や信号変換が可能となります。

また、簡易編集機は誰でも綺麗な繋ぎ編集ができることを主な目的として設置しております。

附属図書館の活動

(平成5年4月～12月)

利用者向けオリエンテーション

新入生ガイダンス

平成5年4月13日

出席学生数：100名(99%)

医学文献の調べ方に関するガイダンス

平成5年9月8日及び9月22日

出席学生数：88名(92%)

ビデオ編集器機説明会

平成5年9月9日

附属図書館刊行物

さざなみ(No.34)(平成5年7月)

附属図書館委員会

第63回附属図書館委員会(平成5年5月18日)

平成4年度決算報告

第64回附属図書館委員会(平成5年10月19日)

平成5年度資料購入の決定

図書館関係会議

平成5年度第1回日本医学図書館協議会評議員会

平成5年4月26日(東京大学)

平成5年度近畿地区国立大学図書館協議会

平成5年4月30日(京都大学附属図書館)

第56回近畿地区医学図書館協議会例会

平成5年5月14日(奈良県立医科大学)

第64回日本医学図書館協会総会

平成5年5月20日～21日(川崎医療福祉大学)

第62回近畿地区国公立大学図書館協議会総会

平成5年6月11日(高野山大師教会本部)

第18回国立医科大学図書館会議

平成5年6月22日(徳島東急イン)

第40回国立大学図書館協議会

平成5年6月23日～24日

(徳島県郷土文化会館)

第56回近畿地区医学図書館協議会例会

平成5年10月6日(和歌山県立医科大学)

図書館情報システム特別委員会ILL専門委員会

(第1回)平成5年9月2日

(大阪大学附属図書館生命科学分館)

(第2回)平成5年11月4日

(大阪大学附属図書館生命科学分館)

(第3回)平成5年12月13日

(大阪大学附属図書館生命科学分館)

図書館情報システム特別委員会目録業務システム専門委員会

(第1回)平成5年8月31日

(京都大学附属図書館)

(第2回)平成5年12月10日

(京都大学附属図書館)

地域ネットワーク関係

近畿地区北部国立大学図書館端末校システム検討会

平成5年11月16日(奈良女子大学附属図書館)

近畿地区北部国立大学図書館機械化連絡会議ネットワークシステム小委員会

(第1回)平成5年7月29日

(京都大学附属図書館)

(第2回)平成5年12月3日

(京都大学附属図書館)

研修関係[参加者]

第6回国立大学図書館協議会シンポジウム

平成5年9月21日～22日(神戸大学)「平元」

平成5年度京都大学監督者(係長級)研修

平成5年10月5日～8日(京都大学附属図書館・京都大学理学部附属臨海実験所)「平元」

平成5年度NACSIS-IR講習会

平成5年10月7日～8日(大阪大学附属図書館)「成宮」

人事院近畿事務局テーマ別研修

平成5年10月19日(大阪大学)「杉本」

平成5年第4回ILLシステム講習会

平成5年10月26日～27日(学術情報センター)「菅」

平成5年度(第5回)職員研修

平成5年11月24日～26日(本学・希望が丘青年の城)「坂本」

第14回国立大学図書館協議会シンポジウム

平成5年11月25日～26日(立教大学)「由良」

附属図書館設備

全世界対応ビデオデッキ及びビデオ簡易編集機設置(平成5年7月)

本学関係者寄贈図書

安藤喬志（化学・教授）

セレンディピティー：思いがけない発見・発
明のドラマ

化学同人 1993

木之下正彦（内科学第一・教授）

経食道心エコーケーススタディービデオシリ
ーズ（全4巻） 日本語版

萬有

高橋三郎（精神医学講座・教授）

産科の精神保健：母児安全管理をめざして
メディカ出版 1993

福祉保健医学講座

行動薬理学の実践：薬物による行動変化
星和書店 1991

御恵贈、ありがとうございます。図書館の蔵書として広く
利用に供させていただきます。

附属図書館事務用電子計算機 システムの更新について

平成6年3月にシステムを更新いたします。

今回の更新は(1)館内OPAC（利用者向け目
録検索）端末台数の増強（2台から5台、プ
リント併設）(2)館外からのOPAC利用（構内電
話回線を利用したアクセス）を可能にする。
(3)ILL業務用端末の増強（1台から2台）など
システムの増強や機能向上を図っております。

システム切り替え作業にあたって一部サー
ビスを一時停止することもあります。その
際には改めてお知らせいたします。



本号の編集委員会で、シリーズ「本との出
会い」を企画し、初回は、図書館委員の神館
教授に執筆を依頼しスタートいたしました。
次号は6月発行予定です。

滋賀医科大学附属図書館報「さざなみ」 No.35

1994年1月発行

発行人 由良信道

編集委員 森下誠一・小川晋平・菅 修一

発行 滋賀医科大学附属図書館 〒520-21 大津市瀬田月輪町
TEL.0775-48-2080 FAX.0775-43-9236